

CAT® CLUB

2025
NO.129

COVER MODEL : Dozer D8



INDEX

- 02 キャタピラー製品の歴史
ホイールローダ
- 04 100年企業メッセージ
サイタホールディングス株式会社
- 06 From the World
- 12 Focus Machine
- 13 Team Caterpillar
- 14 Cat Financial
- 15 Good Support! Good Work!
- 16 持っていますか? この資格
- 17 VisionLink
- 18 TOPICS
- 19 News Pickup! / プレゼント

08 CUSTOMER REPORTS

お客様見聞録 >>>

File 30

株式会社川畑建設

収益に直結するICT施工を追求して

効率化への原点回帰。



キャタピラー製品の歴史 ホイールローダ

Heritage

1950's

1959年、中型ホイールローダの944が発売された。当時は「ホイール・タイプ・トラックスキャベータ (Wheel-type Traxcavator)」と呼ばれていたホイールローダ944が、オーロラ工場から出荷された。944は、従来モデルの設計と大きく異なり、履帯ではなく車輪を採用。垂直マストの代わりにツインリフトアームを装備し、標準バケット容量は2立方ヤード※で、4気筒のCat® D330ディーゼルエンジンを搭載していた。さらに、剛性の高いフレーム構造と後輪操舵機能により、944は高く評価され、業界で他メーカーよりも広く受け入れられた。 ※2立方ヤード(2CY)＝約1.5m



966A 4気筒Cat D333ディーゼルエンジンを搭載。

Early 1960's

1960年、922Aと966Aが944に続いて発売。これらの機械の名称は、1965年に「ホイール・タイプ・トラックスキャベータ」から「ホイールローダ」に変更された。

Later 1960's

1966年、日本初のホイールローダとしてキャタピラー三菱(株)※の922Bが発売された。この時期は高度経済成長期で、多くの工事が発生した背景から、大型マシンだけでなく、小回りが利き旋回や安定性に優れ、高い作業性能を実現させる中型マシンの需要が高まった。

※米国Caterpillar, Incと日本の三菱重工業(株)が1963年に折半出資で設立した建設機械の合弁会社。現在のキャタピラー・ジャパン合同会社。



1970's

1976年、Zバーリンケージ設計を988Bに導入。Zバーリンケージとは、リフトアームをバケットやその他のアタッチメントに結合する機能で、製品積み込みやマス切り作業など、トラック積み込み用途に最適で、つねに高い視認性を確保しながら効率的な作業を実現した。

1990's

1997年、992Gを発売。このモデルは従来の3倍の強度を持つ一体型リフトアームが採用され、この設計は業界に衝撃を与えた。



2000's

2001年、HシリーズにACERT(アサート)※テクノロジーエンジンを搭載開始した。



※新世代環境対応型エンジンACERT (Advanced Combustion Emission Reduction Technology)

2010's

2013年、Kシリーズの966K XEおよび972K XEが登場し、XEテクノロジーが搭載された。綿密に設計された、無段変速機、エンジン、油圧および冷却システムの統合により、性能と燃料効率を大幅に向上させた。無段変速機により、坂道でのスムーズで素早い加速とスピードを実現した。



2020's

2020年、次世代ホイールローダの登場。2024年、ホイールローダでもリモートコントロール (Cat Command) を実現し、コンソールタイプとステーションタイプの二種類の提供を開始。



Cat Command
コンソール



Cat Command
ステーション

※製品発表の年号と導入の年は若干異なる場合があります。 ※写真は海外で撮影したものも含まれます。

Caterpillar's Product History — Wheel Loaders.

サイタホールディングス株式会社

ともに挑戦し、学びあえる関係。
人と人とのつながりを伝えたい。

土木建設工事の才田組として創業した当社が100年以上続く理由は、誠実かつ堅実に仕事をやってきたことに加え、チャレンジを忘れない社風にあると思います。最初の転機は、1956年に碎石業への挑戦が実を結んだことで、建設機械の数も大幅に増えました。

キャタピラー九州さん(1965年創立)とは、当時からの付き合いです。1979年には世界最大級のブルドーザだったD10を九州で初めて導入し、全国の関係者を招いて現地セミナーが開かれました。

私が建設機械に求めるのは、丈夫で長持ちすることです。キャタピラーには歴史とブランド力があり、機械の品質は良くて当たり前。デザインも洗練され、機械を使う人が誇りを持つことができます。今後もCatブランドは大切にしてほしいですね。

そして一番大事なのは、人同士がどう付き合うか。国内でのご縁はもちろん、パキスタンなどでの工事には必ずキャタピラーの機械を使用し、海外でも多くの人と情報交換ができました。お互いに協力しながら学びあえるキャタピラーとの信頼関係を、この先100年も大切にしていきたいと思います。

代表取締役社長 才田 善之



サイタホールディングス株式会社

〒838-0016 福岡県朝倉市下湊472番地 1923年創業



SAITA CORPORATION



Founded in 1923



D10Tブルドーザから始まり 次世代へ紡ぐストーリー

10点満点の 社名に込めた意味

キャタピラーのお客様には
誰しも“始まりの物語”がある。
しかし、Cat®マシンへの思い入れに関しては
DXT社に勝るストーリーはないかもしれない。



次世代D10のキーを受け取ったPeter Hedendahl氏。



1960年代後半、Cat D7 17Aで現場に立つRoyne Hedendahl氏 (Peter Hedendahl氏の父)



北欧を代表する建設・土木企業DXT社の共同経営者であるPeter Hedendahl氏は、建設業を営む父親のもとで若いころから働き始め、キャタピラーのブルドーザに愛着を抱くようになった。まだ幼かったころ、父が運転するD7ブルドーザのキャブの片隅に小さく座り込んでいた情景は、今も彼の心に残っている。

物語はこうして始まった

「父の会社で働き始めたのは16歳のころ。1970年代に父が引退し、会社を引き継ぎました。当時は林業から砂利採取、道路、

鉄道、さらには空港の工事まで、すべてを自分一人でごこなしていたものです。保有していたCatマシンは、D8ブルドーザと953トラックローダの2台だけでした」とHedendahl氏は振り返る。「D10なんて、自分の仕事には大きすぎて、手の届かない存在だと思っていました」

そんな彼のキャリアに転機が訪れたのは、2016年のある晩のことだった。「スウェーデン北部の鉱山会社が閉業するにあたり、D10Tが売りに出されるらしいと友人が教えてくれたのです。私たちは共同で入札に参加し、無事にD10Tを手に入れることができました」これを機に新しい会社を設立した

Hedendahl氏は、原点となったCat D10Tブルドーザにちなんで、社名を「DXT」と名付けたのだった(Xはローマ数字の10)。

DXTの現在とこれから

企業としてのDXT社のあり方は、時代と共に変化を重ねてきた。だが、決して変わらなかったものが一つある。それは、Hedendahl氏のCatマシンに対する揺るぎない忠誠心だ。現在、同社が保有する機械はすべてCat製品で、D6、D8、D10のブルドーザが各3台。さらに油圧ショベルとスクレーパーも所有している。

2024年末、Hedendahl氏はCatディーラーであるZeppelin社の担当者と共に、ストックホルムから12時間かけてアメリカを訪れた。目的は、DXT社のCatマシン群に加わる予定の次世代ブルドーザD10と対面すること。イリノイ州ピオリアにあるSSビルディング※1を見学している最中、ヨーロッパ向けに初めて販売されることになる次世代ブルドーザD10を組み立てライン上で目にすることができた彼は、そのフレームに自らサインを書き込んだ。

※1 大型ブルドーザの唯一の組立ラインがある施設

なぜ Cat を選び続けるのか？

DXT社の次の1台として、次世代ブルドーザD10が当然のように選ばれた決め手は何だろうか。その問いに、Hedendahl氏は即答した。「Everything! (すべてです!)」「Catのブルドーザは昔から優秀でしたが、それだけでなくキャタピラーは、技術や安全性、効率化に関して毎年のように改良を重ねています。今回の新型は特に燃費の面で優れており、お客様にも“うちには最新のブルドーザがあります”と伝えられます。それが最大のアピールポイントですね」

加えて、DXT社はCat製品と共にZeppelin社のCVA(カスタマーバリュー契約)※2も導入し、「これはとてもありがたいサービスですね」とHedendahl氏は笑顔で語る。「Zeppelin社がつねに親身になって対応してくれるおかげで、うちの機械はいつもベストな状態を保っています。私たちはまるで友人や家族のような関係性なんです」

※2 保有されているCatマシンのコンディションを、手間なく最適な状態で維持するためのソリューション。

キャタピラーが紹介する
カスタマーストーリーはこちら。





収益に直結するICT施工を追求して 効率化への原点回帰。

山口県
光市

山口県の情報化施工のトップランナーにとって、ICTは目的ではなく手段。
何よりも効率化を重視して最新の技術を導入してきた川畑建設様は、
基本性能の点でキャタピラーの建設機械をあらためて高く評価しています。



2人のオペレータと最小限の機械で現場を効率良く動かしている。



現場の様子は映像で記録され、本社のモニターでもリアルタイムに確認できる。

320Eの導入を手始めに、ICTの体制を整備 施工管理の人員減に直接的な効果

海外メディアで「世界で行くべき場所」の一つとして紹介され、今、国内外から観光地として注目を集める山口県。県東部の瀬戸内海側に位置する光市は、初代内閣総理大臣・伊藤博文の出身地。伊藤公が自ら基本設計した旧伊藤博文邸や、復元された生家は、市を代表する観光名所となっています。

県内でICT施工のパイオニアである川畑建設様は、旧伊藤博文邸などの建物をドローンやレーザースキャナで3次元測量してデータを提供するなど、地元の文化や観光の振興にも貢献しています。代表取締役の川畑大樹様が「3次元データはICT施工のほかにも応用できるため、さまざまな可能性を探っています」と話すように、廃校になった校舎や、動物園のサル山など、地域の歴史遺産をデータとして記録するお手伝いをさせていただきました。

もちろん本業は、公共土木工事をはじめとする建設現場が舞台。1992年に先代社長であるお父様の克己様が光市で創業し、建設機械を扱う仕事をメインとしてきました。その後、自社で施工管理業務も行うようになり、2010年代には地盤改良事業に進出。大樹様が専務のときの2017年にはICT建機を導入しました。

翌年には、建設コンサルティングを行うグループ会社「サーデック」を設立し、他社ができないICT施工なども請け負ってきました。川畑建設様と合わせて30数名という少数精鋭で、中国地方の建設DXにおいて存在感を増しています。

ICTの取り組みを始めたきっかけも、省力化に迫られたのが大きな理由でした。「当社にとって大きな規模の工事を受注し、人材不足の中で現場をどう回していくのかという課題がありました。当時は情報化施工という言葉も出てきたばかりで、お付き合いのあったキャタピラーやシステム系の企業に相談し、ICTの導入に踏み切りました」と、大樹様は振り返ります。

「測量・設計・施工・出来形管理・電子納品というi-Constructionのフローのうち、当社にとって重要なのは施工です。まずICT建機からスタートし、パワーやスピードなど、オペレータの評価が優れているキャタピラーのマシンを選定し、Cat 320Eを導入しました。次にドローンを購入という形で、徐々に揃えていきました」

大樹様が自ら専門知識を勉強し、社員も意識を高めながら2年かけて自社でのi-Constructionの体制を確立。現在も最先端の技術を採用し、建設機械の自動制御による現場のIoT化を実践しています。

「ICTの導入によってオペレータの作業自体がスムーズになっただけでなく、最大のメリットは、施工管理に従事する技術者が少なくて済むことです。地方の中小建設業は施工管理の人員不足がボトルネックとなり、効果は絶大です」



まもなく現場で稼働する最新鋭の336がグループ会社のサーデックで整備中。

ブルドーザと振動ローラで高さ30cmずつ整地 大きな石にはショベルで対応する気配りも

川畑建設様のオフィスでは、モニターで現場に設置されたカメラから工事の様子をリアルタイムで確認することができます。作業するブルドーザや土工用振動ローラがモニターに映し出され、「どこを転圧していたかを記録し、発注者に提出しています」と大樹様が補足しました。

映像で見ていたのが、今回見学させていただく現場です。山口県内でも光市とは反対側、日本海沿いの長門市で行われている貯木場整備工事の現場は、車で2時間余りの山中にありました。

周辺のトンネル工事など複数の公共工事が出た土砂が運ばれ、それらを締め固めて整地するのが、現在の工事の内容。ブルドーザD1が土砂をならし、振動ローラのCS56Bが転圧をかけていきます。両機ともに3D仕様で、地面を30cmずつかさ上げするようコントロールされています。

厄介なのが、土砂にはゴロゴロとした大きな石も混じっていること。ブルドーザでは対応が難しい場合も多く、320を使って石の角を削っていきます。以前は、残土を運搬してくる業者の大型ダンプのタイヤが頻繁に石でパンクしていたそう。ショベルとブルドーザで石を細かく砕き、振動ローラを動かし続けてできる限り平らにすることで、パンクはほぼなくなりました。川畑建設様の細やかな気配りと丁寧な仕事ぶりは、エリアの異なる建設関係者からも好評です。

現場には4人が従事しており、「丁張りが不要なので、ほとんどオペレータ任せ。書類など本来の施工管理業務に集中でき、残業も少なくなりました」と話すのは、多くの現場の施工管理を別の会社で経験し、今年入社した秋本信介様。川畑建設の魅力は「失敗してもいいから」と挑戦させてくれるところですね」と話していました。

D1と320を担当していた石田克博様も、元々は施工管理者でしたが、ICT導入を機に7年前、本格的にオペレータ業務も開始。「40歳を過ぎて乗ってみたいけれど、意外と乗れるものです」と謙遜されていましたが、2021年に国土交通大臣から優秀施工者（建設マスター）の顕彰を受けた経歴の持ち主です。

チルトロータやチルトバケットなどのアタッチメントを積極的に導入し、一つの建設機械で何役もこなせることを目指す川畑建設様。従業員の方々も一人で複数の役割をこなすなど、自らの能力に磨きをかけておられます。



(右) 施工管理を担当する秋本信介様。



(左) 現場事務所のアンテナ。山間部の現場ではローカル基地局を設置し、ICT施工に不可欠な通信を確保します。

最小限の機械と人員で 現場を効率良く動かす ICTのなせる業

「建設業のイメージを変えたい」 柔軟な発想でさらなる効率化を模索

大樹様ご自身、若い頃は家業とは関係ない飲食業で働いていました。紆余曲折を経て父親の会社に20代半ばで入り、一社員として働いてみて抱いたのは、建設業全体に対する危機感でした。「自分が定年まで働くことがイメージできませんでした。外から見ているよりも大変で、ずっと働いていても希望を持てるのかなって。作業をどう効率化するかをつねに考えてきました」

最新のICT機器の導入は、あくまでも効率化や省力化のための手段。同様に社内ではリモートワークやクラウドなどの活用を進めており、「自分たちは情報化施工している感覚はなく、利益につながる新しいものを使っている感覚です」と大樹様。

「CatマシンのICTシステムとの相性の良さから生じる生産性の高さは、現場の収益に直結し、『ICT施工=収益』という考え方が現場責任者からオペレータにまで浸透しています。また、発注者向けのICT建機の説明会に参加していても、ペイロードなどの積載量管理システムや安全機能などで、Catマシンは高い評価を得ていると実感しました」

近い将来のICTに大樹様が期待しているのは、AIを活用した完全自動施工。ダンプへの積み込みが自動化されるだけでも、大幅な効率化につながります。ただ、技術が進化しても、建設機械の役割は基本的には変わらないとも感じて

います。

「建設機械の基本性能が良くなければ、オペレータも満足できません。ICTで作業がやりやすくなったからこそ、ユーザーはパワーやスピードなどの基本性能を重視するようになると思います。その点でキャタピラーは、海外メーカーならではの良さがあります。行政の方針に合わせて機能を考えるのではなく、いかに現場での生産性を上げるかという合理的な考え方が、当社の社風に合っています。スマートフォンもユーザーが求める機能を追求した海外製が評価されているのと似ています。キャタピラーは展示会のブースもシンプルで、表面的なものにとらわれず、本当に良いものをユーザーに届けていくという自信が感じられます。このスタンスはこれからも変えないでほしいですね」

川畑建設様では、建設系の学科で学ぶ高校生向けの現場見学会や、小学生を招いたイベントを積極的に開催し、次世代の建設業を担う人材の育成も目指しています。「建設業界のイメージを変えて、子どもたちがこの仕事に憧れを抱くようにしたいのです」と大樹様。

「今後は地方の人口が減るのに比例して、仕事量も少なくなることが予想されます。その中で生き残っていくためには、ICTは当たり前として、その次の効率や利益につながる施工などの方法を、従来の考えにとらわれずに模索していきたいと思います」

キャタピラーも、柔軟な発想で最適なソリューションの提案を続けることによって、地域のお客様を支えていきます。

さまざまな現場から運ばれてきた土砂をならし、大きな石の角を削る320。



株式会社 川畑建設
KAWABATA CONSTRUCTION CO., LTD.
工務部 ICT事業課 / 不動産事業部

株式会社川畑建設

代 表 者：川畑 大樹
本 社 所 在 地：山口県光市小周防
1523番地1
設 立：1992年
従 業 員 数：17名
事 業 内 容：土木事業、ICT事業、
不動産事業
<https://kawabata-k.co.jp/>

Kawabata Construction × Cat Product Cat 320



工務課 課長代理 石田克博 様

「作業音がさらに静かになり、
シートの質も良く、長時間座っていて
ストレスを感じない居住性の高さ。
高級車に乗っているような感覚です」

ICT施工に求められる長時間の居住性を保ち、配線もスッキリ

ほとんどの建設機械をICT対応にしている川畑建設で、オペレータがマシンに求める要素の一つが居住性。丁張りなどがなく、乗り降りすることが減ったため、ずっと座っていることも多いそう。「従来機より音もグンと静かになりました。ストレスもなく、非常に乗りやすい」と石田様。現場によってはキャブ内で昼食の弁当を食べたりするので、猛暑の中での作業も快適とのことです。キャタピラーは同じクラスでもパワーがあり、内部も良くて、バランスの取れた海外の高級車のイメージ」と評価されています。

もう一つオペレータが気にしているのは、センサー類が付けられたことによる、作業への影響。石田様は「他社の機械だとバケット周辺にも配線が出張っていて、引っかけないよう気をつかわないといけない場合もありますが、このマシンは配線が内側にスッキリと収まっているので、安心して作業できます」と説明されていました。

Cat Grade 3D仕様 正確な掘削を迅速・簡単・安全に実現



作業現場でリアルタイムの衛星位置情報ガイダンスを利用して、複数の機械で複雑な設計面を施工できます。GNSSレシーバとリアルタイムキネマティック位置情報が、3D設計面の施工に必要な精度を実現するので、作業負担を軽減。高解像度タッチスクリーンモニターにより、オペレータは運転席から傾斜計画を簡単に表示、入力、編集ができ、業務の効率化を実現します。

生産性、安全性、サービスを向上させる
次世代ブルドーザ Cat® D8

	D8	D8 LGP
運転質量	39,500kg	38,085kg
ブレード容量	10.3 m³	9.9 m³
接地圧	89.7 kPa	54.6 kPa

テクノロジーによる効率化の実現

① Catアシスト機能 (D5-D8 次世代機共通)

ステーブルブレード (リフト&チルト/レスポンス)

車体がどのような姿勢でもブレードの位置が一定になるよう、リフト、チルトそれぞれの自動動作が可能。さらにレスポンスも低・中・高の3段階に設定可能なため、少ない労力で滑らかな仕上げを実現します。

ブレード負荷モニター

ブレード負荷をリアルタイムに検知しモニターに表示。現在のブレード負荷をグラフで“見える化”します。ブレードを上げ下げする最適なタイミングと負荷での作業を可能にし、生産性が向上します。



トラクションコントロール

過剰なスリップを検知した際に、履帯のパワーを一時的に抑制。工期短縮を可能にし、さらに足回り部品の摩耗を低減するため、メンテナンスコスト削減にも貢献します。また最大ブレード負荷付近で自動的に作動し、オペレータの操作が不要となるため疲労を軽減します。

② Cat グレード3D / Cat グレード3D レディ

設計図に基づいたブレードの自動制御が可能になりました。Cat グレード3Dレディのオプションでは、各種ライセンスが含まれていないため、将来的に3D機能の導入を検討するお客様には、より少ない負担でICT仕様の準備が可能となります。

③ オートリッパ ※ARO仕様+リッパ装着で利用可能

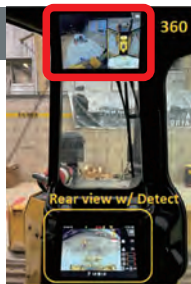
リッパ深さ、シャंक位置、足回り速度を自動的に調整。優れた生産性を維持し、足回りの摩耗を最小限に抑えます。

④ Cat コマンドレディ

後付けキットを接続するための配線は、工場出荷時に装着されており、将来的な遠隔施工化にも対応可能です。コンソールとステーションの2種類で操作が可能。各種テクノロジー機能の活用により、遠隔操作でも作業効率を維持し、パフォーマンスの低下を防ぎます。オペレータが一人で複数の異なるタイプのマシンを切り替えて操作することが可能（ステーションのみ）。粉塵、騒音、振動のない、安全で快適な環境で作業を行えます。

安全性の向上

HDリアビューカメラと長寿命LEDライトにより、車両後方の状況を鮮明な映像で確認できます。さらに360度カメラ専用の10インチディスプレイと後方人検知機能（オプション）により、つねに周囲の安全確認をサポートします。



オペレータ環境の改善

視界性を17%向上させ、安全性と快適性を両立したROPS/FOPS内蔵型キャブを採用。10インチタッチスクリーンの直感的な操作で生産性の向上をサポートします。

お客様の“主治医”として
生涯をメカニックに捧ぐ。

寺西

日本キャタピラー
岩国サービスショップ
メカニック

Technician / Yuichi Teranishi

勇一

キャタピラーのメカニックは、寺西勇一にとって尊敬する父親の職業だった。父も勤務した岩国には米軍基地や港湾があり、業務を通じて世界を身近に感じた寺西は、海外へのチャレンジを熱望するようになった。どこに行っても積極的に自分から人に溶け込む彼の最終目標は、憧れ続けた父と同じ「生涯メカニック」だ。

幼い頃、父がクレーンの付いたサービスカーで帰ってきて、早出してお客様の現場へ向かうその姿に憧れていました。父の背中を追ってメカニックを志し、同時期にキャタピラーに在籍したのは数年間。仕事で直接の関わりはありませんでしたが、当時を知る方々からは父の偉大さを何度も聞きました。78歳になった父は地元で自営のメカニックを続けており、私も生涯メカニックを目指しています。

転職となったのは、会社が立ち上げた東日本大震災の復興支援チームに選ばれ、2年間東北で従事したことです。津波の被害を受けた沿岸部などを行き来して、被災地の復興と地元企業の活動に携わるマシンが止まらないよう、メンバーの知識と技術を結集して懸命に対応しました。その過酷な状況下でマシンを直した経験や、

全国から集まった同世代のメカニックとの間に生まれた絆は、今でも私の宝物です。

岩国では港湾役のほか、基地に立ち入りをして米軍の建設機械の対応をすることもあります。国内の機械とは仕様が異なるうえに、英語でのコミュニケーションとなって大変ですが、これらの貴重な経験は、自らの糧にもなっています。

信条は、お客様に寄り添って小さなことも気配りすること。その点では、相手に興味を持って積極的にグイグイと行く私の性格が功を奏し、米軍の方とは仲良くなって、私の地元の広島を案内しました。

最近、得意先の優秀なオペレータの方が転職して私のチームに加わりました。私自身の経験や技術を伝えて後輩を育てながら、自分も海外でメカニックとして挑戦したいという想いはさらに強くなりました。日本でも海外でも理想像は、何でも安心して任せていただける、お客様やマシンにとって「主治医」のような存在。どのようなことも“I can do”という気持ちでお客様と日々向き合っています。

キャタピラー製品の
詳細はこちら！キャタピラー
コンストラクションジャパンの
Facebookページはこちら！

寺西 勇一（てらにし ゆういち）広島市出身。2005年にCatレンタル西日本に入社、2010年から日本キャタピラー。広島南営業所と岩国SSで各10年勤務。2017年にはメカニックコンテストに中国地区代表で出場した。

LET'S DO THE WORK.™

キャタピラーファイナンス 早めの備え！除雪車両向け シーズンリースプログラム

今年もほどなく雪の季節がやってきます。
キャタピラーファイナンスでは、
除雪車両を無理なく導入していただくための
シーズン払いリースプログラムをご用意しています。
“雪の季節のみ”のお支払いで、
マシンを今すぐご利用いただけます。
除雪車両は早めのご準備がおすすめです！

対象機種

Cat® コンパクトホイールローダ 除雪仕様車 901／902／903／907／910

※その他の除雪仕様車両につきましても、別途ご相談を承ります。

プログラムの特徴

● 冬季のみの柔軟なお支払いスケジュール

11月	12月	1月	2月	3月	4月～11月	12月	1月	2月	3月
納車	お支払い	お支払い	お支払い	お支払い	お支払いナシ	お支払い	お支払い	お支払い	お支払い

お支払いは原則、
冬季4回の口座振替払い
となります。
例：12月～3月の
月1回払い

● 残価設定による支払負担の軽減

あらかじめ設定した残存価格を
物件の元本部分から控除することで、
月々のお支払い額を抑えることができます。



- ◎ リース契約に、期間中の車検・軽自動車税・特定自主検査費用等を含めることができます。
- ◎ 当プログラムは、キャタピラー・ファイナンス(株)とリース契約を締結していただきます。
ご契約にあたっては別途審査がございます。
- ◎ 掲載内容は予告なく変更する場合がございますので、都度お問い合わせください。

このほかにも、お客様の現場をサポートする各種のプログラムをご用意しています。
プログラムによって条件が異なりますので、詳細につきましては販売店の営業担当者、
またはキャタピラーファイナンスまでお問い合わせください。

キャタピラー・ファイナンス株式会社

所在地：〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1
OCEAN GATE MINATO MIRAI 12階
TEL：045-682-3701(営業部直通) FAX：045-682-3795

Webサイトは
こちらから
ご覧いただけます。



Good Support
Good Work!!



初代Cat® 320リビルド車両を CSPI-EXPO 2025に展示

1996年に製造され、愛用されていた初代320油圧ショベルを高知県・高橋建材興業様の
ご協力のもと、CSPI-EXPO 2025に展示させていただきました。
展示ブースでは、リビルドされた初代320に対し、当時を知る来場者から
「この年代の車両はとても懐かしい」という声が寄せられ、
また「小さい頃にこのデザインを見てからCatが好きになった」という若い方もおり、
世代を超えて愛されていることを実感しました。



「CSPI-EXPO 2025」については、
P18「TOPICS」をご覧ください。

27年間、お客様の現場で稼働した初代「Cat 320」のビフォー・アフター

今回展示した車両は、初代Cat 320。日本で設計・開発され、320
シリーズの礎を築いたこの機種は、お客様の現場で27年間、11,800
時間稼働しました。リビルドの内容としてはエンジンおよび油圧シリン
ダオーバーホール、ポンプ・走行モータ・旋回モータ・ホース類交換に
加え、後付けでSurround CameraとLEDライトを搭載しました。

Surround Cameraは、車両右側・左側・後方にカメラを取り付けるこ
とで、前方を除く270度の視界を車内のモニターで確認できます。
車両前方にもカメラを取り付けることで360度確認可能となります。
12Vまたは24Vの電源と適切な取り付け位置が確保できれば、どの
車両にも追加することが可能です。



リビルドとは

キャタピラーは、50年以上にわたり「再生」を通じて、サステナビリ
ティへ取り組んできました。1985年に提供を開始した「Cat認定リビ
ルド」は40年近くの間で50,000件以上の実績を有し、世界中のお客
様から高い評価と信頼を集めています。Cat認定リビルドは、油圧ショ
ベル・ホイールローダ・ブルドーザ・ダンプトラックなどを対象に、Cat

ディーラーが、キャタピラー独自の基準に基づいて主要コンポーネント
を再生・修理し、新車同等の性能や生産性を維持し、耐用期間を延
ばすソリューションです。Cat製品は、過酷な使用環境にも耐えうるだ
けではなく、リビルドによる繰り返しの再生・再利用ができるように設
計されています。

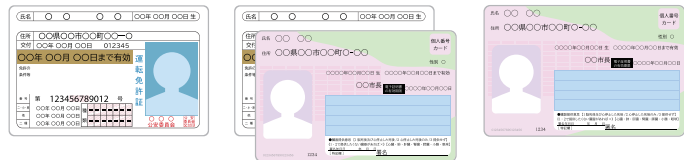


マイナ免許証を保有するメリットについて



日本では人口減少や少子高齢化などにより、既存の公共サービスの維持が困難になることが懸念されています。対応策として、デジタル庁はデジタル技術を活用したサービスの最適化・効率化を推進し、行政コストの削減や利用者の利便性向上を図っています。マイナンバーカードの普及に伴い、令和4年の道路交通法改正で、マイナンバーカードと運転免許証の一体化に関する規定が整備され、令和7年3月24日から全国で運用が開始しました。

令和7年3月24日から、マイナンバーカードのICチップに運転免許情報を記録した「マイナ免許証」を運転免許証として利用できるようになり、従来の運転免許証も引き続き利用可能なことから、次の3つの運転免許証の持ち方が可能になりました。



①従来の免許証のみ
②従来の免許証と「マイナ免許証」
③「マイナ免許証」のみ

①～③の持ち方の条件により、マイナ免許証には以下のようなメリットがあります。

マイナ免許証のメリット	該当する持ち方
住所や氏名などの変更を市区町村役場で行えば都道府県警へ行かなくて良い	③
免許証更新時のオンライン講習の受講が可能 ※優良運転者・一般運転者の場合	② または ③
更新手数料が安くなる	③
住所地以外での運転免許証更新が可能 ※優良運転者・一般運転者の場合	② または ③

運用開始後の「マイナ免許証」保有者数は以下の通り、「マイナ免許証」の希望者は増加傾向にあります。

	マイナ免許証 保有者数	2枚持ち	普及率※
令和7年4月末	402,623人	263,618人	約0.5%
令和7年5月末	636,033人	424,902人	約0.8%
令和7年6月末	868,188人	587,661人	約1.1%

※令和6年末 運転免許保有者数 81,742,303人に対する割合

右下(表2)の一部免除コースを受講される場合、従来までは運転免許証の原本を確認させていただいていました。しかしマイナ免許証に伴い、

前述③の方が受講時にマイナ免許証を提示されてもそれだけでは免許情報を確認できません。そのため、キャタピラー教習所では受講時にご自身のスマートフォンなどで「マイナ免許証読み取りアプリ」に表示された免許情報をご提示いただき、目視にて確認させていただいています。(②の方は従来の免許証を持参ください)
また、③の方の申し込み方法も従来と異なります。
③の方で、特定の運転免許を保有していることが、受講要件となっている一部免除コースをご受講希望の方は、以下(表1)のような流れになります。(表1)

マイナ免許証のお取り扱いについて		
持ち方の種類	マイナ免許証のみ お持ちの方	既存の免許証を お持ちの方 (両方お持ちの方)
申込書提出時 (事前提出時)	読み取りアプリの 免許証情報の写しを添付	運転免許証の 写しを添付
確認方法		
受講受付時 (受講当日)	アプリで表示された 内容を目視で確認	運転免許証 を確認
	保存データの確認 ◎保存が当日であること※	

※受付時に、免許情報をアプリ内の保存データから開いてご提示いただく場合は保存日が受講日当日である必要がございますので、ご注意ください。

◎技能講習を受講申し込みされる際に運転免許証(普通車以上)の保有者が講習時間の一部を免除される例(表2)

技能講習の略称	一部免除コース	標準コース
フォークリフト	31時間 11時間(大特免許に限る)	35時間
車両系建設機械 (整地等用)	14時間(大特免許に限る)	38時間
不整地運搬車	11時間(大特免許に限る)	35時間
高所作業車	14時間	17時間



詳しくは、お近くの
キャタピラー教習所まで
お問い合わせください。

技能講習・安全教育のご用命はこちらまで
キャタピラー教習所株式会社

本社：〒253-0111 神奈川県高座郡寒川町一之宮7-11-1
TEL 0467-73-1221 FAX 0467-73-1211
ホームページアドレス <http://cot.jpncat.com>

詳細は

🔍 キャタピラー教習所



見える化で管理
VISIONLINK™

お持ちのCat®マシンは問題なく稼働していますか？

VisionLinkを活用すれば、こうした質問への回答に必要なデータが、いつでも瞬時に確認できます。

VisionLinkでは、機械の稼働時間、稼働場所、新車保証の期限などの情報に加え、

不具合の発生状況、次のメンテナンス時期やその内容についても

ウェブアプリやEメールなどでお知らせすることも可能です。

これまでに実施されたメンテナンスや修理履歴、点検やオイル分析の内容が時系列で表示されるため

次のメンテナンス計画や突発故障の予防対策に役立ちます。

メンテナンスに必要な部品は、専用のウェブサイト「PCC」を活用して

確認から発注まで行えるので、メンテナンスの計画的な準備が可能です。

さらに、VisionLink上の機械情報は社内だけではなく販売店とデータでも共有できるため、

さまざまな解決策を迅速にご提案することが可能になります。

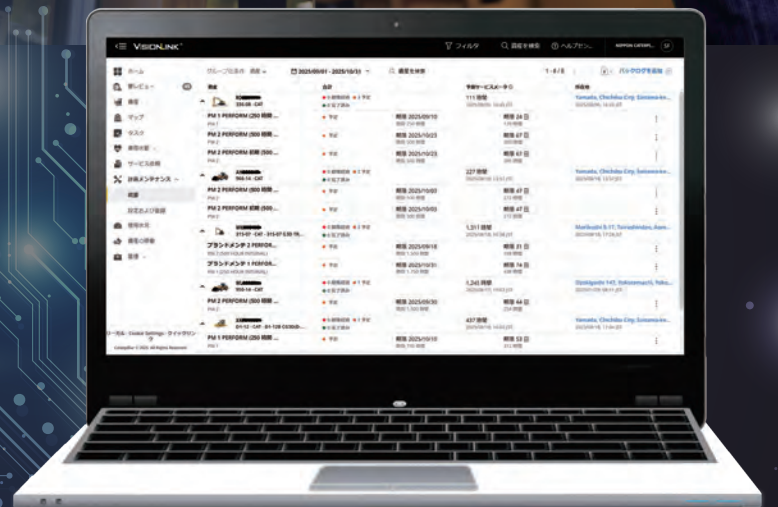
Catマシンの稼働状況や健康状態を把握して機械寿命のケアに貢献する

VisionLinkをぜひご活用ください。

VISIONLINK™ の機能を活用しましょう！



キャタピラーでは、Catマシンに最適な推奨メンテナンススケジュールをご案内しています。お客様は、提供された部品情報やチェックリストをもとに、それぞれの機械やニーズに合わせてカスタマイズすることが可能です。



過去に実施したメンテナンスや修理の内容を忘れてしまっても大丈夫！これまでの履歴は、表示期間を変更するだけで簡単に確認できます。すべての作業記録が資産ごとに整理されているため、必要な情報を容易に見つけることができます。

VisionLinkの新規登録はこちらから！
» <https://vl.cat.com/ja-JP>



※すでにアプリを登録済みの方は、うまく読み込めない場合があります。その際は、アプリから直接ログインしてご利用ください。

100周年記念モデルを CSPI-EXPO 2025で展示

※Construction & Survey Productivity Improvement



上) 埼玉にあるマシンを千葉から遠隔操作
下) 100周年限定のスケールモデルを飾るCat Store

キャタピラー社は創立100周年を迎え、アニバーサリーイヤーとなった今年は「繋ぐ未来へ、次の100年へ。」をテーマに「第7回 国際建設・測量展 CSPI-EXPO 2025」(千葉県幕張メッセ・6月18～21日開催)に出展しました。

当時の機体色を再現したグレー色の100周年記念モデル:油圧ショベル Cat 320とブルドーザ Cat D1を展示し、ご来場いただいた皆様にキャタピラーの歴史を感じていただきました。

デジタルソリューションの展示では、現場の省人化、生産性および安全性の向上に対応する遠隔施工技術「Cat® Command」を紹介しました。現場と離れた場所に設置した運転席とモニターから建機を操作できる「Cat Commandステーション」と、現場で目視をしながら建機を操作する「Cat Commandコンソール」を、屋内外それぞれのブースでデモンストラレーションを行いました。

屋内ブースに設置したCat Commandステーションは、埼玉県D-Tech Centerに設置している320とD6に加え、国内初となるホイールローダ Cat 950を遠隔操作しました。



Cat 308CRの100周年記念モデル



左Cat D1、右265、奥315

屋外ブースでは、100周年記念モデルの308CRの展示に加えて、Cat Commandコンソールを装着したD1、チルトロータを装着した315、そして来年発売予定のコンパクトトラックローダ Cat 265のスマートグレーダブレード仕様の実演および試乗を行いました。

その他にも、メンテナンス情報まで一元管理して、現場の「見える化」を実現する「VisionLink™」、汎用小旋回油圧ショベルCat 325、27年稼働したマシンを「リビルド(再生)」した320(詳細はP.15)の展示に加え、お客様をサポートするファイナンスソリューションなどをご紹介しました。

今回売場を拡大したCat Storeでは、Catロゴの帽子やTシャツに加え、100周年限定のスケールモデルも陳列し、会場を訪れたお客様の注目を集めていました。

日本で納車開始! キャタピラー100周年記念モデルのマシン

株式会社サン・クリーン様へ Cat® 320を納車

(2025年5月27日/福島県双葉郡)

キャタピラーの油圧ショベルは、設立当初から長年愛用しています。南東北展示会で、初めて100周年記念モデルの存在を知り、Catの信頼性と100周年という特別感から購入に至りました。今風のくすみグレーが、かっこよくて気に入っています。購入した機械は、鉄骨カッター、コンクリート圧砕機などのアタッチメントを装着し、解体工事の現場をメインに活用予定です。



代表取締役 高橋 直樹様



平成工業有限会社様へ Cat® 308SRを納車

(2025年7月30日/岩手県遠野市)

当社は、1990年に岩手県遠野市で創業し、地域社会への貢献を通して信頼を得られる建設業を目指し、歩んできました。以来、キャタピラーの油圧ショベル、ブルドーザ、ホイールローダの約20台を活用し、農業土木や造成、舗装や管工事を行っています。北上営業所の展示会に参加し

た際、当社の35周年の節目にキャタピラーさんも100周年を迎えられたと聞き、さらに世界で1台のみ製造された308SRの100周年記念モデルがあると知り、購入しました。しばらくは機械置場に専用の展示スペースを設け、大切に飾っておくつもりです。



代表取締役
安部 秀樹 様



ご愛読者プレゼント

「CAT CLUB No.129」のご意見、ご感想をお寄せください。抽選でCatグッズをプレゼントいたします。

“CATERPILLAR” TWENTY TRACTOR 100周年記念 限定モデル

1名様



3名様



次世代ホイールローダ950
1/50スケールモデル

3名様



100周年記念
タンブラー

【応募要領】必要事項を記載いただき、下記メールアドレス宛にご応募ください。

■ お名前 ■ ご住所 ■ 連絡先のお電話番号 ■ 会社名
■ ご希望のプレゼント ■ 「CAT CLUB」へのご意見・ご感想

【応募締切】2025年12月5日(金)

【応募先アドレス】cat-club-japan@cat.com



● ご当選者には、セールスマンが賞品を直接お届けいたします。お届けの賞品が見本と異なる場合がございます。当選結果に関するお問い合わせ等にはお答えできませんのであらかじめご了承ください。ご提供いただきました個人情報は、当社の個人情報保護方針に基づき、今後の商品開発・販売促進などに利用させていただきます。当社の個人情報、保護方針は、当社ホームページからご覧いただけます。
<https://www.caterpillar.com/ja/legal-notices/dataprivacy.html>

キャタピラー・ジャパン LINE公式アカウント
LINEスタンプ販売中!

スタンプ詳細はこちら >>



友だち募集中
[ID] @caterpillar

新たな景色へ、 歩み行こう。

ひた向きに歩み続けた100年のその先へ。

新たな世界を切り拓くために必要なのは

一つひとつの積み重ね。

Caterpillarのテクノロジーとイノベーションは

あなたの理想を叶えるために進化してきた。

これからも、遥か彼方の「現場」を目指し

どこまでも、共に歩み続けよう。

※このポスターはイメージです。実際の使用環境とは異なります。

あなたと共に、明日の世界をつくる。

キャタピラー

http://www.cat.com/ja_JP/

CAT CLUB 編集部

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-7-1

TEL.045-682-3424

CAT CLUB メールアドレス

cat-club-japan@cat.com

CAT CLUB
デジタル版も
好評配信中!



©2025 Caterpillar. All Rights Reserved. CAT, CATERPILLAR, LET'S DO THE WORK, それらの各ロゴ、"Caterpillar Corporate Yellow", "Power Edge", および Cat "Modern Hex" のトレードドレスは、本書に記載されている企業および製品の識別情報と同様に、Caterpillar社の商標であり、許可なく使用することはできません。記述の内容と仕様は、予告なしに変更されることがあります。写真には、海外仕様の製品およびオプション装備品が含まれていることがあり、国内仕様と異なる場合があります。

用紙にはFSC®認証材、再生資源、およびその他の管理原材料から作られたFSC®認証用紙を使用しています。

